

東淀川区区政会議 健康・福祉部会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は職員

日時・場所 平成 29 年 6 月 15 日(木)午後 7 時から 9 時。東淀川区役所 3 階 304 会議室

出席者 健康・福祉部会委員 9 名

議題 1 平成 28 年度東淀川区運営方針自己評価

議題 2 平成 30 年度東淀川区運営方針に向けた課題について

議題 3 東淀川区将来ビジョン（たたき台）及び平成 30 年度取組みの方向性について

議題 4 今後の取組みに向けて（ワークショップ）

A 班（課題をふまえ、5 年後にめざすべきこと）

- 行政相談をもっと身近にしてほしい。
- 相談できない孤立している人をどう地域で把握し対応できるか。見守り活動する人も固定しているので、輪を広げ人間関係つなげる活動を。
- 人が集まる商店街に椅子を置いて何でも相談できるようにしては。（互いに相談も行政相談も）
- 認知症予防に関する関心が高まっている。家族の負担も大きい。認知症予防できる取組みがあれば百歳体操のように流行るのでは。健康寿命を延ばすためにもいい。

A 班（そのために今できること）

- 昔は伝言板があったように、困りごとや助けられることを伝え合うボードやコミュニケーションツールができないか。椅子を置くでもいい。
- 40～60 代の世代が地域のネットワークを担うべき。危機感を伝え参加してもらおう。
- 時間のある人が地域活動することでコミュニケーションだけでなく自身の健康づくりにもなる。
- 女性はすぐにコミュニティが作れる。ママ友などのネットワークから地域に入って支援ネットワークになる流れができればいい。
- 一方男性は難しい。声をかける等のきっかけが必要。「親父の会」「腕相撲大会」など身一つ入りやすく盛り上がるできないか。
- 東淀川区は福祉施策を他区に先駆けて実施。百歳体操も市内 2 位。もっとアピールしては。

・担い手づくり、自分たちで口コミで人を広げていくことも大事ともいただいた。こつこつと積み重ねること。

B 班（課題をふまえ、5 年後にめざすべきこと）

- 「担い手がない」「声を聞く窓口が脆弱」「情報共有の不足」現実的な実現を。
今後福祉分野は深刻な状況になり空き家も増える。地域に任せるのであれば行政が報酬を払うべき。ポットで存否確認できる時代であり、機械管理を充実したり、いざというとき行政が入り込める法整備など、制度設計からの見直しが必要。情報共有も重要。区民に届いていない。
- 何でも地域包括支援センターがするという方向になっているが、24 時間体制が続き、このままではもたない。行政もバックアップや一緒にここまでするところを見せてほしい。
- 行政が相談員などを雇って担い手を確保することに予算を。
- 地域だけ・行政だけで頑張ってもだめ。どこかにだけし寄せが来たらもたない。
- ひきこもりの高齢者を外出させても活動できる場所が少ない。

B班（そのために今できること）

- 人手不足・担い手不足。大阪市が新しい総合事業（介護予防）担い手研修をしているが、長時間2日間・場所などハードルが高い。もっと受けやすくして敷居を下げてほしい。
- 東淀川区の場合は2つある大学で研修ができれば、大学生のアルバイトの選択肢になるのでは。大学と連携して単位が取れるなどできないか。地域の子ども食堂などにも関与してほしい。
- 家賃補助や町会加入者を優遇など、若い人が東淀川区に来たいと思い、地域に繋がれるシステムづくりが重要。
- 福祉は依存してしまいがちだが、防災は自分の身を守る自分のこととして響く。東淀川区は海拔が低い、周知も足りない。それを糸口にできないか。
- 高齢者にわかりやすい等身大の高齢者の気持ちに合わせた伝え方。歌やロゴで伝えれば響きやすいのでは。宣伝の仕方・アウトプットの仕方など考えていく必要。
- 子どもの受動喫煙が多いのでは。喫煙マナーやモラルの啓発が必要。

- ・若い人が住みやすい東淀川。「住んでよかった住み続けたい東淀川区」をめざしたい。区だけでできないところは市へも伝えていく。

議題5 市政改革プラン2.0（区政編）（素案）

議題6 今後の区政会議スケジュール

その他 「ヘルプマーク」の取り組みについて